Impression

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/8457

雑　感

Impression

金沢大学がん研究所
清　木　元　治

昼食を取りながら読んだ今日の朝日新聞の記事で「病床から科学の本を次々，柳澤さん」というのが何となく目に留まった．柳澤さんというのは生命科学者として活躍された方だが，病気のために第一線から退いておられる東京都多摩市の柳澤桂子さん (55) のことである．特に私と個人的な面識があるわけではない．柳澤さんは発生学の研究を三菱生命科学研究所で続けられていたが腹部てんかんに悩まされるようになり，研究生活の断念を余儀なくされ1983年に研究所を退職された．現在も大半の時間をベッドやリクライニングの椅子で過ごすそうである．その柳澤さんが科学に関する本を自宅で書くようになったのは「科学者には一般の人に事実を伝える義務がある」また，「忙しい研究者には大変かも知れないけれど，私などには一番の適任でしょう」と思ったことがきっかけだそうである．「科学の喜びを分かち会いたい」と一冊一冊に違う工夫を加えながら「卵が私になるまで…発生の物語」(新潮選書)，「お母さんが話してくれた生命の歴史」(岩波書店全4巻) などがすでに出版されている．確かに，その本の題名からして工夫が伺えるし，余り高度な専門語を使わずに自分自身の命の仕組みが解りそうである．

私は出張で外国に出かけることがあるとその町を自分の足で歩き回ってみるのが好きである．その町の本屋さんを覗いてみると何となくそこに住んでいる人のことが解るような気がする．アメリカの本屋さんでいろんな本を眺めていると思わず自分に仕事に関係しそうな本が並んでいるところに行ってしまうが，そこではしばしば有能な科学者が工夫を凝らして専門語を余り使わずに高度の研究によって到達した新しい概念を解説した本に出会うことがある．残念ながら日本の本屋さんでこのような書に出会ったことはなく，精々が高校での生物学の知識を基準に書かれていて，まだまだ取っ付きにくい感じを与える．柳澤さんのような人は我が国には貴重な存在であるから是非頑張ってもらって，科学の喜びに興味を持つ多くの子供達を育てて欲しいと期待している．

十全医学会雑誌に何か書かねばと思いながら書き始めて，たいして気の利いた話題が思い浮かんでいない自分に気がついた．それと同時に記事を引用しながら，自分が新聞の記事に惹かれたのは柳澤さんの言葉の部分で，「科学者には一般の人に事実を伝える義務がある」，「忙しい研究者には大変かも知れない」，「だから私が」の部分に特に共感していることを発見した．確かに研究成果を社会に還元する義務感はいつも感じている．研究論文以外の総説類や教育書も頼まれれば書かねばと思うが余り気が進まないのも正直な気持ちである．自分の時間のほとんどは研究を前進させることに注ぎ込みたいと研究者は考えるもので，そう考えるといつも忙しく感じてしまってそれ以外のことはおっくうに感じてしまう．学生の頃には大学の先生が講義をするのは当たり前と思っていたが教壇に立つ先生の背後にこのような葛藤があることを知ったのは大学に勤めるようになってからである．教授会とやらで集まって色々と話し合うのも重要なことであるがなかなかそれを自分の仕事と思い込むのにも苦労がいる．バランスの取れた大学人になるためには自分の時間をうまく管理して教育や研究成果の社会還元に時間が裂けるようにならねばならないのだろうがあまり自信のなさを感じるこのごろである．